

策定年度	令和4年度
------	-------

東員町地域農業再生協議会
水田収益力強化ビジョン

令和4年5月

東員町地域農業再生協議会

(別記)

令和4年度東員町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町の作物作付状況は、稲作中心であるが、需要に応じた米穀の生産に伴って担い手による麦・大豆の作付けが定着し、団地化とブロックローテーションによる栽培が確立されている。生産者については、稲作中心経営の農家が多数を占め、施設野菜及び園芸作物は極めて少ない。

また、農業経営については、認定農業者制度を導入し農地の利用集積を図っているが、農業者の高齢化が進み、後継者不足が問題となっていることから、生産性の高い農業の推進に支障がみられる。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

高収益作物である、野菜（別表1参照）については、地元直売所にて需要があるため、水田を利用した野菜等への転換を図り、農業所得の向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

町は町内全体の区画整理もほぼ完了しており大型機械での作業が可能である。また、担い手の数は耕地面積に対して多く、農地の引受けが可能な状況であるため、水田は現状を維持する。水田の利用状況調査を年に複数回実施しており、畑作物のみを生産し続けている水田は現状僅かであることから、今後も現地調査を行い水田利用の状況把握に努める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じて水稻を主体に、麦・大豆・飼料用米の土地利用型作物を組み合わせ

せたブロックローテーションが構築されている。主食用米の中でも業務用米の需要が高まっており、今後は実需者が求める品種及び収量・品質確保に向けた米の生産を行う。

(2) 備蓄米
取組なし。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米は畜産農家の需要もあり、契約数量の確保のため、生産拡大が求められている。

多肥栽培や病害虫防除等、基本となる栽培技術の励行により安定した高収量・高品質の生産を図る。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、米粉用米はグルテンフリー市場の拡大が見込まれるため、生産拡大が求められている。複数年契約を推進することで、面積を拡大し、実需者への安定した供給を図る。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の需要減が見込まれる中、輸出用米は需要の拡大が見込まれるため、生産拡大が求められている。特に麦・大豆の不適地において、新市場開拓米を推進することで、面積の拡大を図る。

エ WCS 用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、WCS用稲は畜産農家の需要もあり、契約数量の確保のため、生産拡大が求められている。耕畜連携を推進することで、面積を拡大し、実需者への安定した供給を図る。

オ 加工用米
取組なし。

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 小麦

三重県産小麦は、需要を上回る供給がある中、生産性の安定確保・品質の向上が求められている。赤カビ病の防除等、基本となる栽培技術の励行の他、土壌改良材や堆肥施用、止葉抽出期追肥施用、除草剤散布、明渠設置、プラウ深耕により安定した高収量・高品質の生産を図る。

また、作付けが拡大している飼料用米との農地の高度利用による二毛作の推進に取り組み、生産の拡大を図る。

イ 大麦

三重県産大麦は、需要を上回る供給がある中、生産性の安定確保・品質の向上が求められている。赤カビ病の防除等、基本となる栽培技術の励行の他、土壌改良材や堆肥施用、止葉抽出期追肥施用、除草剤散布、明渠設置、プラウ深耕により安定した高収量・高品質の生産を図る。

また、作付けが拡大している飼料用米との農地の高度利用による二毛作の推進に取り組み、生産の拡大を図る。

ウ 大豆

豆腐の原料となるフクユタカを主とし、実需者と連携しながらニーズに合った新品種の更なる導入を図り、高品質化等に取り組む。

病虫害防除かつ、中耕培土または除草剤散布を必須要件とし、土壌改良材や堆肥施用、開花期の追肥、播種時期の肥効調節型肥料の施用による生育量の確保と登熟向上により安定した高収量・高品質の生産を図る。また麦作跡の有効利用のため1年2作型の水田高度利用に取り組み、生産の拡大を図る。

エ 飼料作物

畜産農家からは、国産飼料の安定供給を求められていることもあり、わら専用稲を作付けし、耕畜連携の取り組みを行い、生産者の所得向上を図る。

また、労働生産性が高く、国産のニーズが高まっている子実用とうもろこしの実需に応じた生産を推進し、麦や大豆等との輪作体系への組み入れを図る。

(5) そば、なたね

近隣のいなべ市産のそばが「いなべの里の蕎麦」ブランドとして実需者から高い評価を得るなど増産の供給が求められているうえ、本町も含めた三重県北勢地域産のそばは人気が高く、原料供給の需要があるため、そば生産の面積拡大を行う必要がある。

また、麦作跡の有効利用のため、1年2作型の二毛作にも積極的に取り組み、水田の高度利用を図る。

(6) 地力増進作物

連作障害回避のため、レンゲを作付けし、地力増進作物と地域振興作物の輪作体系の確立を目指し、地力の回復を図る。

(7) 高収益作物

高収益作物である、野菜（別表1参照）については、地元直売所にて需要があるため、水田を利用した野菜等への転換を図り、農業所得の向上を図る。

また、三重県の地域活性化プランで確認されたゴマについて、さらに生産拡大のための支援に取り組む。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。